

どうぶつあかの赤ちゃん

監修 増井光子

協力 小宮輝之

.....

# ライオン





ここは、サバンナとよばれる アフリカの草原地帯です。  
たくさんのシマウマや 毛なみの茶色いヌーたちが、  
どこまでもつづく大草原で、  
せっせと草を 食べています。  
でも、ここには かれらの肉を 食べるどうぶつもいます。  
どうぶつの王さまといわれる ライオンです。



ライオンのおかあさんは、  
ふだんは むれのなかまたちと、  
見はらしのいいところで くらしていますが、  
赤ちゃんが 生まれそうになると、むれからはなれ、  
木や草が しげった 安全な場所に うつります。  
生まれたばかりの赤ちゃんは、  
とても小さく、まるで 子ネコのようにです。  
生まれて2、3日は 目も 見えなくて、  
3週間ぐらいすぎないと、  
ちゃんと歩くことも できません。





むれを まもるのは おとうさんです。

おかあさんより、ずっと<sup>おお</sup>大きくて どうどうとしています。

りっぱなたてがみが、いかにも<sup>つよ</sup>強そうです。

むれに <sup>ちか</sup>近づく よそものライオンがないか、

いつも ちゅういしています。



サバンナの日ざしは 強く、とてもあつくなるので、  
ライオンたちは あつい昼間は あまりうごきません。  
ふつうは、ゆうがたになるまで、  
木かげや岩かげの すずしいところで、休んでいます。  
木に のぼって、休むこともあります。

